



議会だより

# なよろ

平成 28 年  
9 月定例会

第 42 号

平成 28 年 11 月 1 日  
発行



## 目次 特集『名寄高校新聞局が見た名寄市議会！』14～15ページ

定例会できたこと.....	2
名寄市総合計画（第2次）基本構想・基本計画総括質疑.....	3
決算審査特別委員会の概要・総括質疑.....	4～5
JR北海道宗谷本線の存続を求める要請活動.....	4
議決結果・可決された意見書.....	6
一般質問に11人.....	7～12
議員協議会・議会日誌.....	12
各委員会活動報告.....	13
名寄高校新聞局特集記事.....	14～15
きぼう・議会スナップ・編集後記.....	16

題字 風連下多寄小学校 石谷 陽杜(いしたにはると)さん

平成28年 第3回定例会 9月1日～10月13日

名寄市総合計画(第2次)基本  
構想・基本計画を原案可決

平成28年第3回定例会は、9月1日から10月13日までの43日間開かれました。会議初日は、全議員提案による「JR北海道に公共交通機関としての使命を果たすことを求め、共ニ道北地域の創生を目指す決議」を可決しました。また、10月11日から13日には「名寄市総合計画(第2次)基本構想・基本計画を定めることについて」の集中審議が行われました。議案審議では、条例7件、補正予算案4件、平成27年度決算の認定案10件、その他7件、決議案1件、報告4件、意見書案6件を審議しました。一般質問では、11人の議員が市政について質問しました。

10年間の基本構想・基本計画を集中審議  
(平成29年度～平成38年度)

新名寄市総合計画(第1次)の計画期間が平成28年度をもって終了することから、今後10年間のまちづくりの基本方針となる名寄市総合計画(第2次)基本構想・基本計画の集中審議が行われました。企画担当参事監からの総括説明に対し、各会派から総括質疑が行われ、「市民周知が十分に図られたのか」、「高齢化対策など喫緊の課題に対応しているのか」などを質しました。3つの重点プロジェクト、各基本目標についての一般質疑では、各議員より重点プロジェクトの意義、各基本目標に掲げられた実現の方策の考え方についてなど活発な質疑が行われました。2日間の集中審議を踏まえ加藤市長から「市民議論が不足との意見は真摯に受け止め、ダイジェスト版の作成など市民周知、市民参画を進める努力をする。市民憲章、4つの都市宣言などの精神を議論し個別政策に反映する。地域自治区創設については行政の押し付けとならないよう引き続き調査研究する。」など考え方の説明を受け、原案の通り可決しました。

条例の制定及び一部改正等

地方自治法による審査請求に係る公の施設の関係条例等の整備に関する条例の制定

新行政不服審査法の施行における行政手続条例に基づく審査の基準等の作成に伴い公の施設に関する規定の整理が必要のため、関係条例の整備を行うものです。

主な補正予算

台風・大雨による災害復旧事業

台風7号のほか3つの台風による大雨暴風による災害復旧にかかる経費として公共土木施設災害復旧に1億1600万円、農林業施設災害復旧に500万円他災害対策として1,350万円を追加しました。

感染症対策事業費

B型肝炎予防接種の定期予防接種化に対する予算措置として212万6千円を追加。

創業支援事業補助金

本市で創業する店舗または事業所の新築および増改築に対し補助するため100万円を追加しました。

住宅改修等推進事業補助金

中小企業の振興並びに地域経済の活性化を図るとともに、良質な住環境の整備を促進するための補助として1,300万円を追加しました。

地元定着化推進事業費

市内に居住し、かつ市内の事業所に就業する名寄市立大学の卒業生に対し、支度金を助成し本市に定着することを促進するために200万円を追加しました。

東児童クラブ運営事業費

12月1日から運営予定の東児童クラブに係る運営経費として423万円を追加しました。

臨時会(8月12日)

平成28年第2回臨時会が8月12日に開催されました。名寄東小学校校舎改修工事の工事請負契約の締結について審議し承認しました。建物の劣化防止と児童の良好な学習環境整備のため、外壁全面塗装、屋根全面のウレタン防水などの改修工事が行われます。

総合計画集中審議総括質疑



市政クラブ・新緑風会 大石 健 二議員

総合計画の主役は市民です

市民への周知は図れたか

**問** 総合計画の市民周知は、今日までに十分に図ることができたか。

**答** 市民で構成された計画策定審議会、市民説明会等を通して市民意見の聴取に努めた。今後もダイジェスト版の発行等で周知に努めていく。

市長任期に連動した理由は

**問** 平成19年の一般質問で総合計画（第1次）の前後期各5年の10年間を選挙で選出される市長の在任期間に設定すべきではないか、と質した経緯がある。第2次の計画期間を市長任期と連動した経過の説明を。

**答** 市長の政策方針に具体的な施策を示し、行政課題への的確な対応と市長公約を明確に反映させるため、地方自治法の改正、地方分権の進展の中で期間設定の考え方も変わった。

地域自治区創設の行方は

**問** 第1次で地域自治区の創設が見送られた。平成19年の一般質問で挙げた「町内会活動との違い」等の6課題を創設に向けて解決を図ったのか。

**答** 急な地域自治区の導入は困難との判断があった。地域連絡協議会を醸成させて行く中で、展望が見えると考える。

超高齢社会への対応は

**問** 健康寿命の延伸とADL等でQOLを高める介護予防対策は。

**答** 平均寿命と健康寿命の差を短縮する事業展開と地域包括ケア構築で強化に努めていく。



総合計画は新たなまちづくりの設計図

市政の声の反映は

**問** 今回の総括質疑は、一問一答で行わせていただく。まず、総合計画策定作業時において、市民憲章や都市宣言、自治基本条例の概念、精神などを意識したのか。

**答** 当然ながら、名寄市の根幹であり、一部不十分さもあるのかも知れないが、意識はしている。

市民憲章では「みんな

**問** 市民憲章では「みんなで話し合いながら、住みよいまちをつくりまします」と定めているが、今回の策定作業で十分市民と話し合ったのか。

**答** 今回の策定作業は、1年前のまち・ひと・しごと創生総合戦略協議も包含している。非核平和都市宣言などは、実施計画の中で反映させたい。

**問** 第1次には、審議会委員は100人、各部会開催は最低で6回。今回は、審議会委員50人、部会によっては3回開催にとどまり、内容も1回



市民連合・凜風会 佐藤 靖 議員

総計議論は十分か

目は正副部長選出、2回目は1次計画の報告、最後の1回で新計画議論。これで十分な協議と言いつけるのか。総合戦略議論に依存したのではないか。

**答** 協議時には、各委員らの真摯な議論があったと受けとめている。

課題解決に全力を

**問** 名寄市は高齢化率30%を突破し、超高齢社会となっている。重点プロジェクトにおいて、特養問題を含め高齢者に目を向けるべきではないか。

**答** 実施計画の中に反映させたい。

**問** 基本計画を市長任期と合わせたことは、市民の思いがこもった計画より、市長公約を優先することになるのではないか。

**答** あくまでも市民議論、議会議論が優先する。公約ありきではない。

平成27年度 決算審査特別委員会

平成27年度決算を認定

第3回定例会において、全議員をもって構成する平成27年度決算審査特別委員会を設置しました。

第1回委員会を9月1日に開催し、委員長に川口京二委員、副委員長に高野美枝子委員を選出しました。

第2回目以降は、9月26日から29日の4日間の実質審議に入り、各会派の代表による総括質疑並びに委員による質疑が行われ、行財政改革、財政健全化、防災、地域交通、生活・環境問題、福祉行政、健康増進、農林商工業及び観光の振興、教育、病院事業などの身近な課題をはじめ、将来に向けての課題整理や各種事業の継続性・改善を求めるなど、適正な予算執行にかかわって慎重な審査を行いました。

審査の結果、全会計決算中、一般会計、国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計については賛成多数により、その他の下水道、個別排水、簡易水道、食肉センター、後期高齢者医療の5特別会計と病院事業会計、水道事業会計は全会一致で認定しました。

委員会としては、各会計決算はいずれも正確な収支が行われ、予算の執行が適正であったことを認め結審しました。



川口委員長（左）と高野副委員長（右）

『JR北海道に公共交通機関としての使命を果たすことを求め、共に道北地域の創生を目指す決議』

北海道、とりわけ道北に住む地域住民にとって、JR北海道の宗谷本線は自らが暮らすまちと、それぞれの都市を結ぶ大切な公共交通機関である事は論を待たないところで

です。そのような中、JR北海道は鉄道事業の大幅見直しの方針を打ち出し、地元自治体との協議を始める考えを示しました。その理由として経営環境の悪化の改善が挙げられています。我々も、決してJR北海道の経営改善に反対するものではありません。

しかし、今回JR北海道が打ち出した経営改善策は、鉄道事業の規模縮小という手段で経営改善をしようという、縮小再生産的な手法としか思われません。JR北海道の経営は非常に厳しい事は理解していますが、同様に北海道、道内市町村も厳しい財政状況のなか、何とか知恵を絞って北海道の活性化、地域の活性化に取り組んでいます。

道北地域では国鉄の民営化に伴って天北線、名寄線、深名線の廃止を受け入れました。確かにバス事業への経営転換によれば、経営効率上がる事は容易に試算、想定できる事です。しかし、上記の長大三線の廃止によって、転換バスの本数は増え、見かけ上は沿線住民にとって利便性が改善されたにもかかわらず、沿線地域のその後の著しい衰退を見れば、鉄道事業が単なる経営効率以上の大きな影響を地域に与えている事を、われわれ道北に住む地域住民は身をもって学んできました。JR北海道は国の基本方針である、地方の創生の理念と相反する経営規模縮小という手法を採るのではなく、いずれも財政難の団体である事を踏まえた上で北海道、関係市町村、JR北海道の三者が中核となり、国、関係団体、地域住民の協力や知恵を借り、道北地域の活性化を図る事が、JR北海道の使命であり、ひいては道北地域の創生に繋がると考えます。

JR北海道におかれましては、今までにも増して、道北地域における主要交通機関の主役を担う使命を果たしていただき、共に地域の活性化に取り組んでいただきますよう強く要望するものです。

本市議会といたしましても、JR北海道はもとより、国や道及び市、関係団体や地域住民の皆さんと協力し、一致団結し、地域の活性化のため行動します。

以上、決議する。

平成28年9月1日

名寄市議会

**JR北海道・宗谷本線の存続を求める要請活動**

9月6日宗谷線沿線自治体12市町村の議会でJR北海道、北海道運輸局などに対し要請行動を行いました。それぞれの議会で可決した決議文を手渡し、宗谷線の存続を要請しました。名寄市議会でも第3回定例会で左記決議を全会一致で可決しました。



要請活動で宗谷線の存続を訴えた

決算審査特別委員会総括質疑



市政クラブ・新緑風会 東 千春委員

民間発想的な運営は

コスト意識の向上を

**問** 市政執行方針から民間的発想での行政運営とコスト意識の向上について。また、本市のラスパイレス指数に対する評価について。

**答** 決算の黒字が合併後最大となった原因としては市税や交付金、地方交付税の伸びとともに、P D C A サイクルによる事業の見直しや改善を意識することにより歳出での経常的な経費の削減がみられた。

ラスパイレス指数では国の基準を上回っているが、年齢構成などで変わる部分もあり平成29年度以降は下回る予定。職員の意識向上では市民との協働やコミュニケーション、政策形成能力、事務能力も併せて高めるように努める。

基金等の状況について

**問** 約82億円の基金残高の振り分けの考え方と、日銀のマイナス金利の影響について。また、市債残高の自腹分は、

名寄市立大学に約3億円や名寄東病院、公共施設整備基金に1億1千万円など今後の政策や老朽化対策を考慮した。今後の合併算定替が終

る厳しい状況や総合計画（第2次）を考慮し、各種基金の積み増しを行った。財政調整基金の残高の考え方は標準財政規模の10%が目安と言われ、本市は12億5千万円が基準となる。今後の財政状況を考慮し事業とリンクさせながら基金全体のあり方を考えたい。市債残高は一般会計で平成19年度では237億円、そのうち地方交付税措置額を除いた実質的債務残高は44%で104億円、27年は市債残高255億6千万円のうち34・5%の88億2千万円となった。マイナス金利は市場金利が下がり財務省からの貸付金利の下限は0・1%から0・01%となり、今後の起債の借り入れには有利に働く見込みとなる。



市民連合・凜風会 佐藤 靖委員

適切な財政運営が必要

市民ニーズと施策

**問** 今回の総括は一問一答方式で行う。27年度決算の評価は。

**答** 市民の理解と職員の協力で結果的に、一般会計において6億5千万円ほどの黒字を計上できたことは、名寄市の財政運営上は可とすべきである。

**問** 27年度予算編成の訓令では、財政見通しの厳しさを強調し、経費節減を訴え、結果的には過去最高の黒字額となった。一定評価はするが、市民のニーズを的確に把握し、年度途中であつても施策に組み入れる手法があつても良かったのではないか。

**答** ニーズを把握し、精査を加え反映させている。一方、歳入不足にならないことを意識し、特に地方交付税の見積もりは厳しくしている。

**問** ならば、総合計画部会で消防はしご車の導入が、名寄

市においては基準上、1台導入が必要としながら、必要な経費を理由に見送る方針を出したが、命や財産より財政を重視しているのではないか。

市民ニーズに伝える意識改革が必要ではないか。

**答** はしご車については、理解や意識、説明が足りなかった。お金がかかるから、やらないという意識は改める。

**問** 将来不安に対応した財政

今後の見通し上、財政が十分とは言えないのは理解する。ならば、公共施設等総合管理計画に積極的に取り組む一方、経営状況が厳しい市立総合病院への財政支援が必要ではないか。

**答** 管理計画の実現議論を先送りしているのではない。今後も検討を深め進める。市立総合病院に対しては、連携協議を定期的に行つており、緊急的な繰り入れもあるとの認識は持つている。

## 平成28年第3回定例会議決結果

議案番号	件名	結果
議案第1号	地方自治法による審査請求に係る公の施設の関係条例等の整備に関する条例の制定について	原案可決
議案第2号	名寄市税条例及び名寄市税条例の一部を改正する条例の一部改正について	原案可決
議案第3号	名寄市都市計画税条例の一部改正について	原案可決
議案第4号	名寄市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の一部改正について	原案可決
議案第5号	名寄市私法上の債権の放棄に関する条例を廃止する条例の制定について	原案可決
議案第6号	工事請負契約の締結について（平成28年度北斗団地公営住宅建設工事（建築工事））	原案可決
議案第7号	平成28年度名寄市一般会計補正予算（第2号）	原案可決
議案第8号	平成28年度名寄市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	原案可決
議案第9号	平成28年度名寄市介護保険特別会計補正予算（第1号）	原案可決
議案第10号	平成27年度名寄市一般会計決算の認定について	認定
議案第11号	平成27年度名寄市国民健康保険特別会計決算の認定について	認定
議案第12号	平成27年度名寄市介護保険特別会計決算の認定について	認定
議案第13号	平成27年度名寄市下水道事業特別会計決算の認定について	認定
議案第14号	平成27年度名寄市個別排水処理施設整備事業特別会計決算の認定について	認定
議案第15号	平成27年度名寄市簡易水道事業特別会計決算の認定について	認定
議案第16号	平成27年度名寄市食肉センター事業特別会計決算の認定について	認定
議案第17号	平成27年度名寄市後期高齢者医療特別会計決算の認定について	認定
議案第18号	平成27年度名寄市病院事業会計決算の認定について	認定
議案第19号	平成27年度名寄市水道事業会計決算の認定について	認定
議案第20号	名寄市議会会議規則の一部改正について	原案可決
議案第21号	名寄市議会委員会条例の一部改正について	原案可決
議案第22号	市長の専決処分事項に関する条例を廃止する条例の制定について	原案可決
議案第23号	工事請負契約の締結について（名寄市立大学保健福祉学部再編事業（新棟建築主体工事））	原案可決
議案第24号	工事請負契約の締結について（名寄市立大学保健福祉学部再編事業（新棟機械設備工事））	原案可決
議案第25号	工事請負契約の締結について（名寄市立大学保健福祉学部再編事業（新棟電気設備工事））	原案可決
議案第26号	平成28年度名寄市一般会計補正予算（第3号）	原案可決
議案第27号	名寄市総合計画（第2次）の基本構想・基本計画を定めることについて	原案可決
議決第1号	市長の専決処分事項について	原案可決
決議案第1号	J R北海道に公共交通機関としての使命を果たすことを求め、共に道北地域の創生を目指す決議	原案可決

### （賛否の分かれた議案）

（賛成） ×（反対） 欠（欠席） 退（退席）

議案番号	件名	議員名	市政クラブ・新緑風会 議										市民連合・凜風会			公 共 名				
			東川孝義	塩田昌彦	川口京二	山田典幸	大石健二	佐々木寿	東千春	黒井徹	浜田康子	山崎真由美	奥村英俊	高野美枝子	佐久間誠	熊谷吉正	佐藤伸典	高橋幸典	川村幸栄	野田三樹也
議案第10号	平成27年度名寄市一般会計決算の認定について																			×
議案第11号	平成27年度名寄市国民健康保険特別会計決算の認定について																			×
議案第12号	平成27年度名寄市介護保険特別会計決算の認定について																			×

公（公明） 共（共産党） 名（名風会） 議（議長） 議長は表決に加わりません。

### 第3回定例会で次の意見書を提出することに決定しました。

- 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書
- 後期高齢者医療制度における保険料軽減特例の維持・継続を求める意見書
- 公共輸送機関であるJ R北海道等に係る経営支援策を求める意見書
- 農業・農村を衰退させかねない農政改革とTPPの拙速な国会承認の反対を求める要望意見書
- 「米政策改革」の抜本的見直しを求める要望意見書
- 指定団体制度の堅持など酪農政策の確立に関する要望意見書

一般質問

大雨被害と減災対応



市民連合・凜風会 山崎 真由美 議員

**問** 治水対策、減災対応はいかに大雨の度に氾濫がおきる真狩川の治水対策と自主防災組織の現状及び避難行動要支援者への対応は。



大雨により越流した後の真狩川

**答** 国の農業事業により農業排水路として整備された真狩川は、補助事業の採択基準により整備していることから、集中豪雨等に対応した整備水準になっていない。維持補修工事の範囲内で、減災対応を行ってきた。しかし、8月の大雨で再度越流が確認されたため、鋼矢板やふとんかご等を設置し、河岸を嵩上げする

対応などを検討していく。自主防災組織は、全81町内会の内17町内会で組織されている。高齢者や障がい者など避難行動要支援者の避難には、地域の「共助」が重要な役割を果たすため、町内会への働きかけに努めていく。

名風聖苑の環境改善を

**問** 運用開始から26年を経過する施設であるため、環境改善が必要とされているが。

**答** 平成21年度に、屋上防水、外壁塗装の改修を実施している。近年の気候変動では、北海道においても熱中症対策が必要となつてきており、空調設備の改善、冷房の導入について、施設の利用状況等も踏まえ検討したい。

他の質問「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と地域おこし協力隊を関連付け、現状の農業支援員に加え冬季スポーツ振興でも隊員募集を行うことについて

対応などを検討していく。自主防災組織は、全81町内会の内17町内会で組織されている。高齢者や障がい者など避難行動要支援者の避難には、地域の「共助」が重要な役割を果たすため、町内会への働きかけに努めていく。

市民と協働のまちづくりを



市政クラブ・新緑風会 東川 孝 義議員

**問** ひまわり事業の充実強化を観光の振興に向けて、観光協会との連携と知名度向上の取り組みは。ヒマワリ観光の取り組み経過と課題は。



新たな施策が期待されるヒマワリ観光

「公開の年をピークに減少している。大規模な作付けの復活など、観光振興計画の見直し作業の中で、ヒマワリ観光は重要なテーマとなる。

スポーツ大会の市民周知は

**問** 合宿・スポーツ大会への受け入れの具体的な施策は。

**答** 今年2月に開催された全国中学生スキー大会では、名寄市PTA連合会によるお汁粉のおもてなしなどの取り組みをしていただいたが、市民への働きかけや旅館業、商店街などの周知に課題が見られた。今後開催されるJOCジュニアオリンピックカップにおいては、開催事務局を設置し、大会や合宿に関わる受け入れ組織を立ち上げ、多くの市民に大会会場へ足を運んでいただくための体制づくりや、円滑な受け入れ体制の構築に対応を進めて行く。

他の質問・新名寄市病院事業

改革プランについて

鋼矢板：河川などの護岸工事に用いる鋼製の矢板  
ふとんかご：蛇籠（じゃかご）。鉄線などを用いかごを作り、碎石を詰め込んだもの。河川の護岸工事に用いられる。

一般質問



交通体系、農業振興質す<sup>ただ</sup>

市民連合・凜風会 佐久間 誠 議員

離農抑制策を講ずべき

**問** TPPが批准された場合の畑作及び酪農・畜産農家への影響は。また、急速に進んでいる離農抑制策として小規模農家、兼業農家への支援策を講ずべきでは。

**答** 北海道の農林水産物の影響額は402億円、598億円程度目減りする。名寄では小麦・甜菜・牛肉が影響を受けると想定され、影響額は慎重に分析し算出したい。平成27年農家戸数は、は593戸と平成22年と比較すると121戸減っている。農家人口を減らさない取り組みと共に、軽量作物の導入に向けた試験研究と栽培技術の普及に取り組んでいきたい。

超党派で宗谷線維持を

**問** JR北海道は利用状況の悪い8区間として宗谷本線（名寄 稚内間）を、道内6番目にあげている。道内選出国會議員の力も借りて、超党



宗谷本線は豪雪地帯の生命線

派で維持・存続の働きかけをすべきと考えるが。

**答** 国がかなり踏み込んで抜本策を講じなければ路線維持は難しいが、豪雪地帯の鉄路の重要性、国土保全の観点、観光庁の広域周遊ルートにも逆行する動きだ。10月上旬、北海道市長会の要請に参加すると共に、宗谷本線活性化推進協議会としても要請活動を粘り強く行っていく。

**他の質問**・市役所庁舎の今後の考え方・空家対策について・住民票の取扱いについて



市民が主役のまちづくり

市政クラブ・新緑風会 大石 健 二議員

高額な不妊治療の助成を

**問** 子供が欲しいのにできない。不妊治療は人工受精、体外受精など、さまざまな治療法が進歩している反面、受診者は心身ともに大きな負担を強いられている。一部保険が適用されるものもあるが、

保険適用外の治療が多く、ほとんどが妊娠まで多額な治療費を自己負担している。地に足をつけた少子化や人口減対策の施策として名寄市独自の不妊治療の助成制度の創設で、不妊で悩む市民の経済的負担の軽減を。



不妊治療は心身の疲弊ほか経済的負担も大きい

**答** 市の不妊治療費助成の申請状況は26年11件、27年7件。道内32市中21市で上限を設けて助成を行っている。聞き取りなどの結果を踏まえ、実情に合った効果的な助成を検討していく。

市街地活性化の施策は

**問** 中心市街地は沈滞や停滞と言う名の長いトンネルから、未だ脱却できずにいる。活性化を模索する商工会議所から市街地の公有地の利活用を図る提言が行われるなど、市街地活性化の期待感が高まる中で、具体的な活性化策は、

**答** 空洞化に歯止めがかからない。商工会議所の市有地有効活用の提言は、庁内にワーキンググループを設置し検討していく。産官金サポートネットワークでも創業支援や事業承継を協議し行っていく。他の質問・ふるさと納税の再構築・河川水位の見える化

一般質問



特養定員割れ 危機的

市民連合・凜風会 高野 美枝子 議員

**問** 特別養護老人ホームの危機  
介護職員の不足により定員割れになっているが現状と取り組みは。



対策が待たれる特別養護老人ホーム

**答** 定員1000名の清峰園では介護職員不足により現在の入所者は90名。しらかばハイツでも定員80名のところ70名で定員を10名下回っている。待機者は両施設合わせて191名おり、182名が市内からの入所希望者。清峰園の介護士は昨年11月末に定数より8名減の52名、しらかばハイツは同4月に6名減の31名になった。ハローワークで随時

募集し、札幌や旭川等の大学や専門学校を訪問し人材確保の働きかけをしている。職員アンケートを実施し職場の問題など広い視点で離職防止策を講じるよう指定管理者の社会福祉事業団を指導したい。

**問** 男女共同参画社会の推進

条例制定後の具体的な取り組みと特定事業主行動計画について。

**答** 概要版の配布、パネル展等により条例の周知を図り、市民や企業に浸透させるのが課題であり、次期の計画の中で具体的に進めたい。本市の特定事業主行動計画については「仕事と子育ての両立」ができるよう職場環境の整備や時間外勤務の縮減などに取り組み、職員の「仕事と生活の調和」を推進し人間性豊かな人材の育成を図る。

**他の質問**・市民にやさしい公共施設のあり方について・公営住宅の環境整備について



子ども子育て支援の状況

市政クラブ・新緑風会 塩田 昌彦 議員

**問** 就学までの母子保健事業

ひまわり子育てガイドブックの取り組みと子育て支援センターひまわりらんど夏の暑さ対策について。

**答** 子育てに対する負担や不安の解消を図るため、初めて子どもを持つ夫婦を対象とした「お母さん・お父さん教室」の開催、生後0〜4ヶ月児を対象に家庭訪問を行う

「こんにちは赤ちゃん訪問」の実施など発育、発達・育児支援を行っている。また、親子の居場所づくりや子育て支援として、「親子お出かけバスツアー」の充実を図るとともに、ひまわりらんどなどの夏季利用に係る除湿対策から、空調整備の検討をする。

**問** 冬季スポーツの拠点化

合宿の受入体制と（仮称）スポーツコミッション構想及び協議会の設置について

**答** 名寄市の資源、冬季の自然環境・施設環境・人材を活

かし、冬季スポーツの大会や合宿、冬季ナショナルトレーニングセンター等の誘致など「名寄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つである「冬季スポーツの拠点化」の実現に向け、各関係機関との連携を図り、将来を見据えた大会・合宿の受入母体、スポーツコミッションへ展開させる。

**他の質問**・農業振興について  
・スポーツ振興と風連球場の改修整備について



スポーツ合宿をのぼりで歓迎

スポーツコミッション：スポーツ合宿やスポーツイベントの誘致・支援を通じて、交流人口の拡大による地域経済の活性化を目指すとともに、地域スポーツの振興を図っていく官民一体の組織。

一般質問



弱者の予防的避難の導入を

公明 高橋 伸 典議員

**避難者支援システム導入を**

**問** 地方公共団体に無償で公開・提供されている住民基本台帳のデータをベースにした被災者支援業務の効率化と正確で公平な支援を進めるための避難者支援システム導入の考えは。

**答** 災害が発生した場合、災害の被災者の援護を実施するための基礎となる台帳を作成することができ、台帳作成をシステム化することで効率化が図られるが、有効なシムテムの調査に加え、費用対効果を検証するとともに、運用実績のある自治体を参考にし、導入を検討したい。

**弱者の避難行動プランを**

**問** 災害時に避難が困難な一番弱い立場にある人に対して配慮し対策を進めていく避難行動プランの策定を。深夜の避難行動は高齢者や小さな子供のいる家庭には難しいため、暗くなる前に予防体制避

難所の開設ができないか。

**答** 空振りを恐れず、引き続き早めの避難発令を出していくことと、避難行動要支援者や乳幼児・児童等の夜間の避難については庁内でも議論している。熊本県では予防的避難を実施しているところがある。予防的避難は有効な方法と考えており、導入を考える。他の質問・除排雪のあり方について・郊外の道路排水対策について・町内会未加入者の避難行動対策について

**認知症予防と施設整備を**



地域で認知症の対策を

日本共産党 川村 幸 栄議員

**問** 高齢者の4人に1人が認知症又はその予備軍といわれ、2025年には高齢化のピークを迎え、認知症高齢者の増加が予想される。早期に気づくことが介護予防につながるのでは。専門家が見つかる軽度認知障害MCIが注目されている。回想法での予防や警察犬を活用した徘徊、行方不明への対応、施設入居に対する整備、家族支援について伺う。

**答** MCIは日常生活に支障をきたす程にならず、認知症とは診断されないが、この段階で脳の活性化を図ることや運動習慣は認知症予防に重要といわれている。徘徊高齢者SOSネット事業へ早めの登録、未帰宅時の早め届け出が重要と考えている。

**女性が参政権を得て70年**

**問** 本年4月、男女共同参画推進条例が施行された。8月

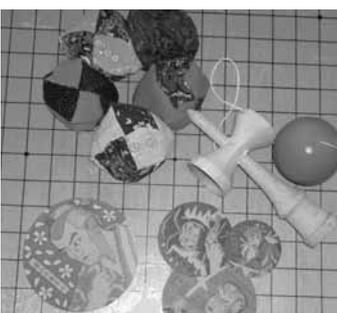
には行動計画に向けた市民アンケートも行われた。そこで

条例の周知、市職女性管理職割合の増、DV等権利侵害の対応、教育現場での取り組みは。

**答** ホームページや広報2月号で概要版を全戸配布。6月には国と連動し、週間パネル展を行った。今後セミナーを開催し多くの市民に参加してもらえよう努める。女性管理職の割合は増加傾向にあり、性別を問わない公平な管理職登用を推進していく。DV等暴力を未然に防止し、啓発を進め、支援体制の維持に努める。



避難行動要支援者の早期避難の対策が必要



昔懐かしい道具や玩具で脳の活性化を促す回想法の活用を

DV：ドメスティック・バイオレンス。配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力

一般質問



人員不足が最大の課題

市民連合・凜風会 奥村英俊 議員

改善を約束

**問** 名寄市が設置の特別養護老人ホーム清峰園・しらかばハイツで介護職員が不足、定員が未充足の現状に対し指定管理者として適切か。人材確保に向けて資格取得に対する補助や返済不要の奨学金制度、家賃補助や無料の再教育プログラムなど考えられるが、最優先課題という認識と市長の責任、解決に向けての市長が考える具体的な取り組みを伺う。

**答** 職員が充足されず定員どりの運営ができていないことに対して大変重く受け止めている。業務の1日のローテーションを見直し介護補助員の導入や潜在介護士の掘り起し、復職者支援などの検討と提言も受け止め、市としてやるべきことをしっかりとやる。

**問** 最新の北海道単価を適用し無理なく安全に作業できる余裕ある工期を設定し適切な賃金水準の確保と長時間労働改善や安全確保を図るための方策をとっている。条例化に向けては、庁内組織全体・事業所・関係機関において具体的な取り組み方法について議論を進める。

**問** 8月の台風における農業被害への今後の対応と対策は。また、河川の土砂堆積や雑木の繁茂が流れを阻害し、農地等への浸水の原因となっている箇所も見受けられる。災害を未然に防ぐためにも、計画的な整備が必要ではないか。

**答** 農作物の被害に対しては再生産への影響等を確認し対応を協議する。国や道が管理する河川の整備については要望をしているが、優先順位のなかでの対応となり今後は今回被災した箇所を最優先に要請し、未改修河川の整備と併せ整備済みの河川の土砂上げや雑木撤去等の維持管理についても要望をしている。



地域の活性化のために

市政クラブ・新緑風会 山田典幸 議員

台風による農業被害について

**問** 北海道縦貫自動車道特別市多寄町（名寄市間）12について、関係期成会等の要望を踏まえたなかで市としての整備構想を示し、各団体と協議すべき時期と考えるが。

**答** 早期完成・供用開始について引き続き強く要望していく。市民や地域から要望がある風連インターチェンジと智恵文南降口については市としても必要な設備と受け止め、実現に向けて関係機関に働きかけていく。名寄19線周辺の整備については地域活性化の方策について市の役割等も含めて検討を進める必要があると考えている。

**問** 議論を進めると前進回答 公契約条制制定に向け



改善が待たれる介護施設

**問** 高規格道路の整備について



基幹産業の活性化に向けた施策展開を

**他の質問**・ICT農業の推進について・郊外地区の高齢者向け施設の整備について

一般質問



言葉踊るアベノミクス

市民連合・凜風会 熊谷吉正 議員

地方財源の展望と危惧

**問** 次年度概算要求と交付税総額及び社会保障予算の確保の動向は。投資的経費等の抑制で名寄市の影響は、さらなる行革を求める安倍政権のトップランナー方式の認識は。

**答** 総務省の仮試算では交付税当初予算比約16兆円で内訳として臨時財政対策債が大幅に増加し、非常に厳しい見通し。名寄市の影響は、東小改修の補助金や社会資本整備、介護保険の低所得者支援が影響を受けた。今後、国の動向を注視すると共に社会保障予算、地方財源確保を働きかける。現行の行財政改革でクリアでき、導入予定はない。

総合的空家空き地政策

**問** 住宅改修等推進事業は評価するが、空家空き地（空間）等政策の中に、冬季の除排雪による雪処理やコンパクトシティ等、都市政策としての総合化の検討が必要では。



危ない空家、まず相談を

**答** 10月から、住宅改修事業に移住定住、空家等の利活用等も加え、建設業の振興、雇用の創出、住環境の整備に込めたい。この事業化の過程では災害対策の意見もあった。提案の政策の総合化については、今後の空家等対策計画を推進する中で検討していく。**他の質問** 今後の公共施設等の使用料等の統一基準案及び、上下水道料金の値上げ・老人クラブはじめ諸団体等の「パス借り上げ」料金見直しについて

議員協議会  
(8月12日、9月29日)

8月12日、名寄市総合計画（第2次）素案について、名寄市総合計画策定審議会の主な審議経過、基本構想・基本計画（素案）の概要、基本的な考え方、市民意見の聴取の状況、地方自治法改正に伴う総合計画の取り扱い及び地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金地方創生先行型の効果検証についての説明がありました。

9月29日には「名寄市総合計画（第2次）基本構想・基本計画（素案）」に対するパブリック・コメント手続きの実施結果について、公共施設の使用料の見直しについて、設定基準の考え方について説明がありました。



使用料の見直しとともに施設利用率の向上の手立てなど質問

議会日誌 6~10月

- 6/21 議会報特別委員会
- 6/29 市民福祉常任委員会  
議会改革調査特別委員会
- 7/1 経済建設常任委員会
- 7/12 各会派代表者会議
- 7/15 議会運営委員会  
議会改革調査特別委員会
- 7/22 議会報告会
- 7/25 議会報告会
- 7/26 全国市議会議長会理事会（東京都）
- 7/27 経済建設常任委員会
- 8/4 市民福祉常任委員会

- 8/12 各会派代表者会議  
議会運営委員会  
平成28年第2回臨時会  
議員協議会  
議会改革調査特別委員会  
議会報告会市民意見要望  
提言の市長申し入れ
- 8/17 総務文教常任委員会
- 8/18 経済建設常任委員会
- 8/26 各会派代表者会議  
議会改革調査特別委員会
- 8/29 議会運営委員会
- 8/31 議会報特別委員会  
市民福祉常任委員会  
議会運営委員会
- 9/1 平成28年第3回例会開会

- 9/5 総務文教常任委員会
- 9/13 市民福祉常任委員会
- 9/15 経済建設常任委員会
- 9/26 平成27年度決算審査  
特別委員会（～29日）  
議会運営委員会  
議員協議会
- 9/27 議会運営委員会
- 9/29 議員協議会
- 9/30 上川北部市町村議会議  
長会9月定例会  
市民福祉常任委員会
- 10/3 議会運営委員会
- 10/5 議会運営委員会
- 10/12 議会運営委員会
- 10/13 定例会閉会  
議会報特別委員会  
北海道市議会議長会  
道北支部議長会（旭川市）

トップランナー方式：歳出効率化に向けた業務改革で他団体のモデルとなるようなものを地方交付税の基準財政需要額の算定に反映する取り組みのこと。

## 委員会活動をお知らせします

### 総務文教常任委員会

委員会を8月17日に開催し、各部より所管事項の報告として風連中央小学校及び東児童クラブの設計概要、名寄市立大学の卒業生地元定着化推進事業等の説明を受けました。また道内行政視察を控え、図書館、学校給食センターを訪問し、現状報告を受けました。スポーツ振興アドバイザーの阿部雅司氏に冬季スポーツの拠点化事業として大会・合宿誘致について、ジュニアの育成についての考えを伺い、懇談会を行いました。8月22日から3日間道内を視察研修し、9月5日に委員会を開催し、それぞれの視察箇所について議員間で意見交換を行いました。



冬季スポーツの拠点化事業について阿部雅司氏に聞く

### 市民福祉常任委員会

平成28年6月29日、8月4日、31日、9月13日に委員会を開催しました。市民部からは、空家等対策計画素案、市税条例他2件の条例改正、及び市税収納状況、市立病院からは平成27年度決算概要、28年度第1・四半期状況、病院事業改革プラン案のパブリックコメント手続き結果及び公表と修正結果。健康福祉部からは、第3回定例会に提案する補正予算の総合福祉センター身障者トイレ改修、B型肝炎予防接種委託料等の説明を受けました。他に次期総合計画に向けた課題等の説明を受け質疑を行いました。8月4日には、少子高齢化に伴い重要な役割を担う民生・児童委員連絡協議会と意見交換会を行いました。



福祉行政の課題解決と充実に向けた意見交換会

### 経済建設常任委員会

委員会を7月1日・27日・8月18日に開催し、中小企業振興条例改正に伴う支援メニューガイドブック作成、産官金連携による「なよろ経済サポートネットワーク」会議、住宅改修リフォーム助成事業、有害鳥獣対策実施状況、振興公社の経営安定戦略プロジェクト会議、木造住宅耐震診断等補助制度の一部改正とサンルダム建設事業の工期延期、LEDの照明導入調査事業、常任委員会で研究課題とした名寄市の除排雪概要の説明を受け、農務課水稲育成、都市整備課道路工事、工務課排水管整備工事、建築課市立大学図書館工事の現地視察を実施。9月15日には町内会代表の方たちと除排雪について意見交換会を行いました。



大きな期待を受け工事が進む大学図書館

### 議会運営委員会

平成28年第3回定例会の日程及び議事運営等を協議するため、8月29日、9月1日、27日、10月5日、12日に委員会を開催しました。8月29日の委員会では、会期を9月1日から9月29日の29日間とすること、11名の議員が一般質問を行うことを確認しました。市長からの提出議案19件、報告2件と議会提出議案4件を初日に審議すること、追加議案は4件の予定で最終日に審議することを確認しました。また、今定例会において平成27年度決算審査特別委員会を設置し、審査日程を9月1日、26日、27日、28日、29日とし、2会派が総括質疑を行うことを確認しました。また、9月27日の委員会では9月29日の議事運営等について協議し、会期を10月13日までの14日間延長し追加議案として提案された、名寄市総合計画(第2次)の基本構想・基本計画を、10月11日、12日に本会議を開催し集中審議することを確認しました。

# 社会に関心を

「中高生に分かる市議会」をテーマに、市議会の概要や議員さん方はどういふことをされているのかを取材し、名寄市議会の黒井徹議長にインタビューしました。

# れる議会に の「手話条例」

名寄高校新聞局が取材



緊張しながら取材をする新聞局員（共に2年生）

黒井議長は「議員を務めてから今年で13年目、議長としては6年目になります。議長は議員の中から選ばれるのですが、私は自分から意思表示をし、議長になりました。議長の本職はスムーズに議論が進むように議事の整理を

行ったり、公式な行事への参加などです。」と話された。市議会について、「一般質問という場があり、市民の意見を取り入れ、名寄市を良くしようと考えています。また、議員が提出した条例には約半年の議論を経て決定した『名寄市みんなを結ぶ手話条例』などがあります。道内ではこういった条例が珍しいため、各地から視察する方が訪れます。名寄市では政務活動費が会派ごとに1人月1万円が支給されます。主な使い道は、先進地の大阪や九州などへの視察や市民との懇談会の費用として使われています。」と語られた。

議長自身の話を尋ねると「市民に信頼される議員になるといいのは議員が共通して大切にしていると思います。それが、それをリードしていくのが議長の役目だと考えています。その中で市民への分かりやすい説明や私自身が自

風連地区の議会報告会では意見交換の中で、学童保育や防災対策などの要望が多く出されていました。また、「市民に信頼される議会を目指して」議会改革調査特別委員会が設置されているとの説明も。

「私が中学生の頃は、家の農家の手伝いをしていました。名寄農業高校に入ってからバスケットボールをしたり、農業クラブの会長を務めました。その中で学んだ、みんながどういふ意見を持っているかを聞く力やはっきりと大きな声で話すという力は今の仕事にも役立っていると思います。」と笑顔で話された。

最後に「自分のやりたいことを見つけてことや自分の意見をもつこと、人の話を聴く



名寄市議会の様子  
議員の平均年齢は60.1歳、議員定数は18名。

地方議会には、定例会と臨時会があり、名寄市議会では3月、6月、9月、12月に定例会が開かれます。例えば、6月議会では議案の審議、一般質問（議員が市政について報告や説明を求めたり、疑問点を質問）請願・陳情・意見書などの審議が行われました。また、議

会には常任委員会（名寄市では、総務文教常任委員会、市民福祉常任委員会、経済建設常任委員会の3つ）、議会運営委員会、特別委員会（議会報特別委員会、議会改革調査特別委員会）が設置されています。議員はこれらの出席や行政視察などのほか、個人の活動として勉強会や調査研究、市各種団体主催行事への参加、市民相談などの活動をしています。

特に、一般質問は市民要望などを含め「まちを良くする」ために行われ、近年では「子ども医療費の就学前医療費無料、小学生については入院医療費無料」などが実現しています。

議会の様子は傍聴のほかに、名寄市のホームページや議会だよりで公開されています。

## 市民の要望を実現させる

## 議会は市政の監視役

# 信頼さ

# 議員提出



笑顔でインタビューに答えられる黒井徹議長

プロフィール 市議会議長 黒井徹さん  
生年月日 1950年3月9日（66歳）うお座  
好きな食べ物 米・お寿司  
経歴 名寄農業高校 北海道拓殖短期大学（現：拓殖大学北海道短期大学） 自営（農業）



また、部活動加入率は90%を超えており、新聞局は全道高校新聞コンクールで20年連続の総合賞（最高賞）を受賞、全国高等学校総合文化祭の新聞部門に15年連続16回出場しています。

## 名寄高校

### 集中之行のもとに

名寄高校は校訓「集中之行」のもとに勉強・部活動の両立を実践しています。特に、英語はMEP（名高イングリッシュプロジェクト）を行っています。

ことは大切です。職業体験やボランティアを通して、もっと日本や社会に目を向けてみてください。」とメッセージをくださった。

# ☆ き ぽ う ☆



再び名寄へ、そして次世代へ  
名寄市西10条南6丁目 外川 晴香

10年前、私は名寄市立大学の第1期生として栄養学科に入学しました。卒業後は給食受託会社（洞爺湖町）や病院の健診・保健指導部門（旭川市）で管理栄養士として働いてきましたが、昨年9月に名寄市在住の方と結婚しこの街に戻ってきました。そして縁あって、母校である名寄市立大学の栄養学科教員として、今年度から学生の教育に携わることになりました。

現場で働く中で、給食経営や保健指導の手法や技術、他職種との連携など様々なことを学び、管理栄養士の必要性を再認識しました。そのような経験を今後の学生教育に活かせればと思っています。若い世代が管理栄養士という仕事に希望をもって社会へはばたく、そのサポートをしていきたいです。



患者さんの「きぼう」  
名寄市西4条南6丁目 南 香奈絵

私は今年の4月から名寄市立病院で看護師として働いています。入職してから半年が経過しようとしています。毎日新しい発見や学びが多くあり、仕事にやりがいを感じています。今はまだ失敗も多いですが、患者さん1人1人に適切なケアを考え、提供していく楽しさを、少しずつ感じられるようになりました。

患者さんの中には不安を抱えて入院してくる人もいます。様々な原因で退院が延期になってしまうと、患者さんは更に不安を抱えてしまいます。そんな時、他職種間でカンファレンスを行い、患者さんにとって今1番必要なケアは何か、どのようにケアすれば退院の方向性が見えてくるのか話し合っています。私達の関わりで患者さんが「きぼう」を持てるよう、様々な職種と連携しながら、これからも頑張っていきたいと思っています。

## 表紙の写真紹介

今回の写真は、本号特集の名寄高校新聞局による議長インタビューの写真です。最初は緊張した様子の名寄高校新聞局員の2人でしたが、次第に和やかな表情で取材を進めていました。本号が若い世代の皆さんにも議会に関心を持っていただくきっかけになればと思います。



15基のあんどんが威勢よく風連市街地を練り歩きました

名寄市議会議員有志13名が「第38回風連ふるさとまつり」に参加しました。沿道の市民の皆さんと声を交わし楽しい時間となりました。

（8月13日）

議 会 ス ナ ッ プ

編 集 後 記

寒さが身に染みる季節になりました。市民の皆さまはどのような過ごしでしょうか。ストーブの火をつけて一日を家庭で過ごす機会も多くなります。火災も増えてくる時期になりますので、お互い気をつけましょう。今年は例年になく道内に台風が上陸し、大きな被害を受けた自治体もありました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。今回の経験を機に、より一層の防災意識を高めていきたいと思います。今号において、議会報特別委員会では名寄高校新聞局に議会への取材をお願いし、特集記事が実現しました。名寄市議会としても、今後、若い世代の皆さんが社会に関心を持つきっかけになるのではと大変嬉しく感じております。これからも若い世代の方たちと交流を深めて行きたいと思っています。

（樹）

